

Rotary 西尾ロータリー Weekly

2026-27年度 石川会長テーマ -ロータリーで楽しもう-
第3226回例会 令和8年9月8日(火) 天気:雨 No. 7



会長 / 石川 哲朗 幹事 / 岩瀬 正広

クラブ会報委員 金原健志 / 三浦眞澄 / 松本容明

例会日: 火曜日 12:30 例会場: 西尾コンベンションホール

事務局: 西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL: 0563-54-7770 FAX: 0563-54-7050 URL: <https://www.nishio-rotary.org>

2026-2027 年度
RI テーマ

持続可能なインパクトを生み出そう

【本日のプログラム】

プログラム 『3RC合同ガバナー公式訪問』

RI 2760 地区ガバナー 國府谷 俊盛 君

RI 2760 地区幹事 山田 哲也 君

司 会 三宅千鶴例会運営委員長 斉 唱 「君が代」 「奉仕の理想」
食 事 三水亭



【委員会報告】

〈各クラブ出席委員会〉

本日の出席数

(西尾一色RC)	出席者数 12名	欠席数 7名	出席率 70.5%
(西尾KIRARARC)	出席者数 31名	欠席数 17名	出席率 64.58%
(西尾RC)	出席者数 55名	欠席数 13名	出席率 80.88%

〈スマイルボックス委員会〉坂田 吉郎委員長

ガバナー 國府谷俊盛君 地区幹事 山田哲也君 ご厚志をいただきました。

西尾一色RC会長 渡邊徹君 本日は國府谷ガバナー、山田地区幹事、ようこそ西尾へお越しくださいました。ご指導よろしくお願いいたします。

西尾KIRARARC会長 丸目藤二君 國府谷ガバナー、山田哲也地区幹事、ようこそ西尾市へ。ガバナーの地区テーマ「元気で なかよく 楽しく そして高潔に」しっかり勉強させていただきます。

西尾RC会長 石川哲朗君 國府谷ガバナー、山田地区幹事、ようこそ西尾市へ。ご指導よろしくお願い致します。

〈各クラブ会員増強委員会〉

新会員紹介

西尾一色RC	松屋裕之君 (2026. 7. 01)	小塚周一君 (2026. 9. 01)
西尾KIRARARC	黒柳向巨君 (2026. 6. 23)	
西尾RC	岩佐明広君 (2026. 1. 20)	大高真樹君 (2026. 4. 07)
	遊佐典将君 (2026. 5. 19)	



【卓話】

『3RC合同ガバナー公式訪問』 國府谷 俊盛君



まず、熊本の震災についてお話しします。特に強い揺れのあった益城町では、井戸水で生活をしている4万世帯のうち、まだ5000世帯が井戸水が出ない状況の中で、井戸の掘削会社を一生懸命探して活動されています。当地区でもこのことを受けて、100万円を2720地区のガバナー事務局に送らせていただきました。また、千葉や富山などいろいろなところで水害が起きています。こうしたこともロータリーの方で何か支援ができないか、いろいろなことを検討しています。

今年度の世界的なテーマは、「クリエイティブ・ラスティング・インパクト」です。会長のオンラインカ・ハキーム・ババロラさんは、歴代のRI会長さんが、おっしゃられなかった個人の変容について述べています。あなたがロータリーに入ってからどう変わったのか、あなたの家族がどう変わったのか、あなたの会社がどう変わったのか、あなたの周りの友人たちがどう変わったのか見つめなおす1年にしてほしい、というメッセージを出されました。私たちロータリアンは、1人の力では何もできません。仲間がいて、仲間の信頼とともに、社会奉仕活動を推進していく立場にあります。

地区テーマは、「元気に仲良く楽しく、そして高潔に、新たな視点からの挑戦」というサブテーマをつけました。まず職業の全うです。自らが、自らの仕事を全うすることによって社会貢献をする。これがロータリアンの正しい姿、あるべき姿のため、原点に戻って、自らの職業を全うしてほしいという思いで書きました。そして、ロータリー活動の原点は親睦です。1921年に、ロータリーの創立者であるポール・ハリスさんが、スコットランドのエディンバラにおいて、ロータリーの原点は親睦だ、という名演説をされました。私たちは1人では何もできません。2人でも、3人でもできない。10人、20人集まり、そうした仲間の力で、地域の発展・支援を進めていく。それがロータリアンの使命であり、私たちの原点なのだろうと思っています。

今年はそこに高潔さということを加えました。地区においては、公共イメージ向上委員会を設置し、ロゴマークはこうあるべき、こうしたときはこういう表情をするなど、いろいろな指導をしています。ただ、こうしたことよりも、私たち一人ひとりのロータリアンの行動が、地域の方々の目にどう映っているのか、私たちがしている奉仕活動が、たった1人の高潔さを欠く行動で否定されてはならないという思いです。

私が今年度のテーマの中で重きを置いたところは、日本の子供たちへ、ということです。国連が掲げている子どもの権利条約に基づく4つの主要な柱は、差別の禁止、子どもの最善の利益、生きる・育つ権利、意見の尊重です。果たして今の日本が、こうした権利条約に基づく子どもの環境になっているのでしょうか。

小中高生の1年間の自殺者数は、2024年で529人です。日本を背負っていく若い子どもたちが、毎年この人数、自らの手で命を断っています。世界の先進国といわれるG7の中で、10万人あたりの自殺死亡率は日本がトップです。こうした現実に対して、ロータリアンとしてどう向き合うか、どういうふうに関わりと接していくかということが、大きな課題かと思っています。

そして、児童の虐待数については、22万3691件です。こうした子どもたちの虐待の裏には貧困という大きな要因があります。私たちの地域の周りにはニコニコしている子ども、無邪気に遊んでいる子どももいますが、そうした子供たちの中には、様々な思いを抱えた子たちがいるということです。先々週、知多の方の合同例会にお邪魔させていただいたときに、一人の会長さんが、一人親家庭、貧困家庭の子どもたちに「君たちの夢は何ですか」と聞いたところ、「おじいちゃんにご飯が食べたい。今日、温かいご飯が食べられる。それが夢です」と答えられたそうです。私はそれを聞いて、本当に胸が締め付けられる思いがしました。

他にもロータリーの精神の一つとして、「I SERVE」を掲げています。年次基金150ドル、ポリオプラス基金30ドルですが、今年はあえて恒久基金というものをもうけました。必ずやってください、クラブを結集してやってくださいというつもりはありません。恒久基金というシステムがロータリー財団の中にあるということに気づいてほしいという思いです。2760地区は全国でも優秀な地区ですので、誇り高きロータリアンとして、高潔性をもって、共に活動していきましょう。

